

---

# 鉄砲伝来と若狭伝説

国産化の陰に伝わる孝女若狭物語

種子島鉄砲館参与 鮫嶋 宇豊



---

# 1 種子島の位置





明

南京

寧波

福州

広州

マカオ

台湾

奄美大島

沖縄諸島

種子島 1543・8・25

マゼラン (1521)

シャム王国

安南

アユタヤ

フニ

フィリピン群島

ルソン

ブルネイ

インド・ゴアへ

マラッカ

ミンダナオ島

スマトラ

シンガポール

ボルネイ セレベス

モルッカ諸島 (1522)

マタラム王国

チドール

パレンバン

ジャワ

東南アジア



# 琉 球 弧

沖縄から種子島まで弧状に連なる





# 薩南諸島

トカラ列島は点々と  
奄美大島へ続く



渡瀬ライン  
(生物分布)





▶ **茜に染まるトカラ列島を望む**

---

▶





宮之浦岳

永田岳

1936m

屋久島

種子島

種子島の最高峰282m

# 世界自然遺産の島屋久島は指呼の間

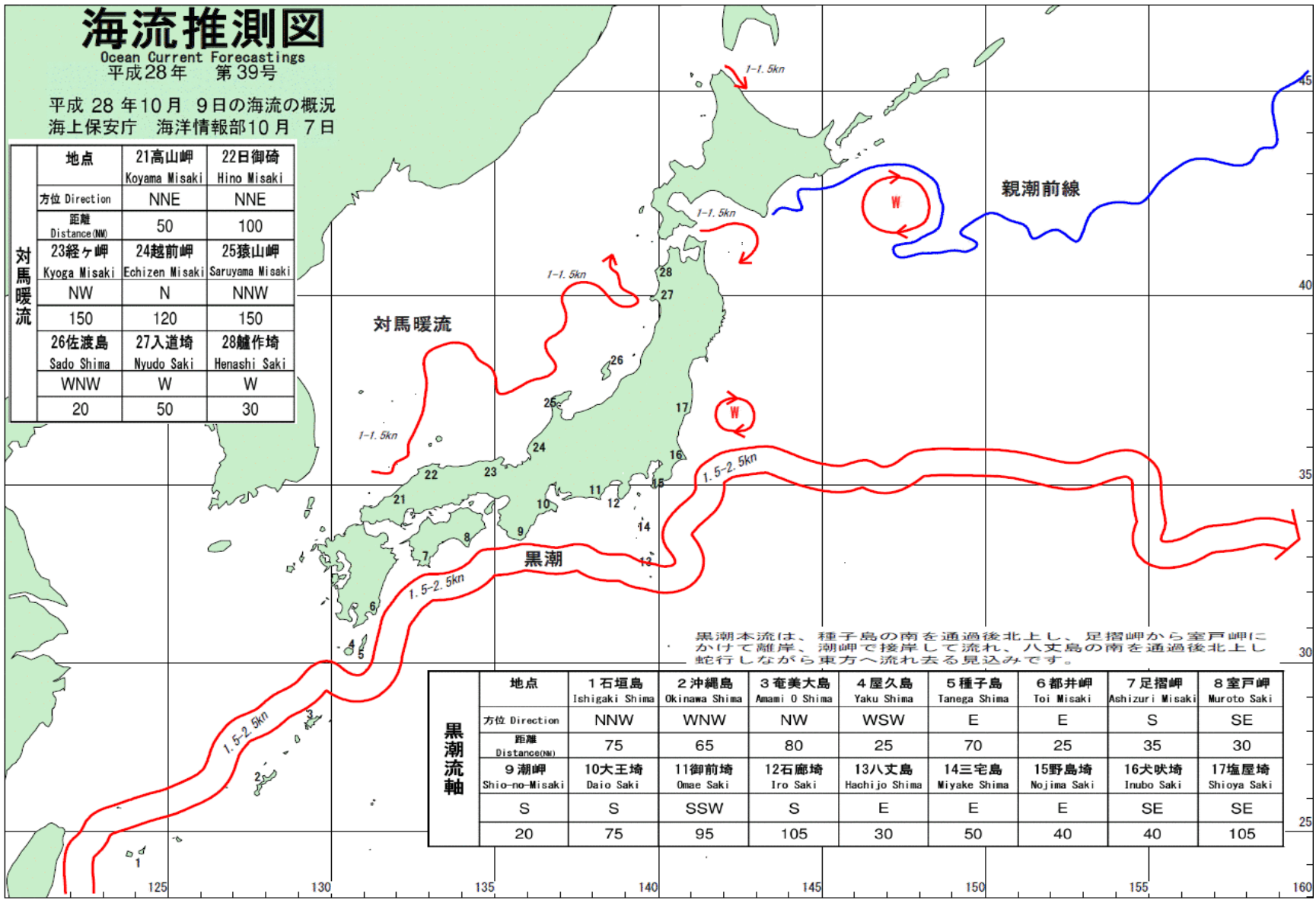


# 海流推測図

Ocean Current Forecastings  
平成28年 第39号

平成28年10月9日の海流の概況  
海上保安庁 海洋情報部10月7日

対馬暖流	地点	21高山岬 Koyama Misaki	22日御碕 Hino Misaki
	方位 Direction	NNE	NNE
	距離 Distance(NM)	50	100
	23経ヶ岬 Kyoga Misaki	24越前岬 Echizen Misaki	25猿山岬 Saruyama Misaki
	NW	N	NNW
	150	120	150
	26佐渡島 Sado Shima	27入道埼 Nyudo Saki	28幡作埼 Henashi Saki
	WNW	W	W
	20	50	30



黒潮流軸は、種子島の南を通過後北上し、足摺岬から室戸岬にかけて離岸、潮岬で接岸して流れ、八丈島の南を通過後北上し蛇行しながら東方へ流れ去る見込みです。


黒潮流軸	地点	1石垣島 Ishigaki Shima	2沖縄島 Okinawa Shima	3奄美大島 Amami O Shima	4屋久島 Yaku Shima	5種子島 Tanega Shima	6都井岬 Toi Misaki	7足摺岬 Ashizuri Misaki	8室戸岬 Muroto Saki
	方位 Direction	NNW	WNW	NW	WSW	E	E	S	SE
	距離 Distance(NM)	75	65	80	25	70	25	35	30
	9潮岬 Shio-no-Misaki	10大王埼 Daio Saki	11御前埼 Omae Saki	12石廊埼 Iro Saki	13八丈島 Hachijo Shima	14三宅島 Miyake Shima	15野島埼 Nojima Saki	16大吠埼 Inubo Saki	17塩屋埼 Shioya Saki
	S	S	SSW	S	E	E	E	SE	SE
	20	75	95	105	30	50	40	40	105

# 黒潮の流れ

---

# 種子島へ鉄砲伝来 史 跡

---







**七百年の歴史を綴る  
種子島家譜 89巻**

# 鐵砲記

慶長十一年（一六〇六）

○同年久時作鐵砲記見于左

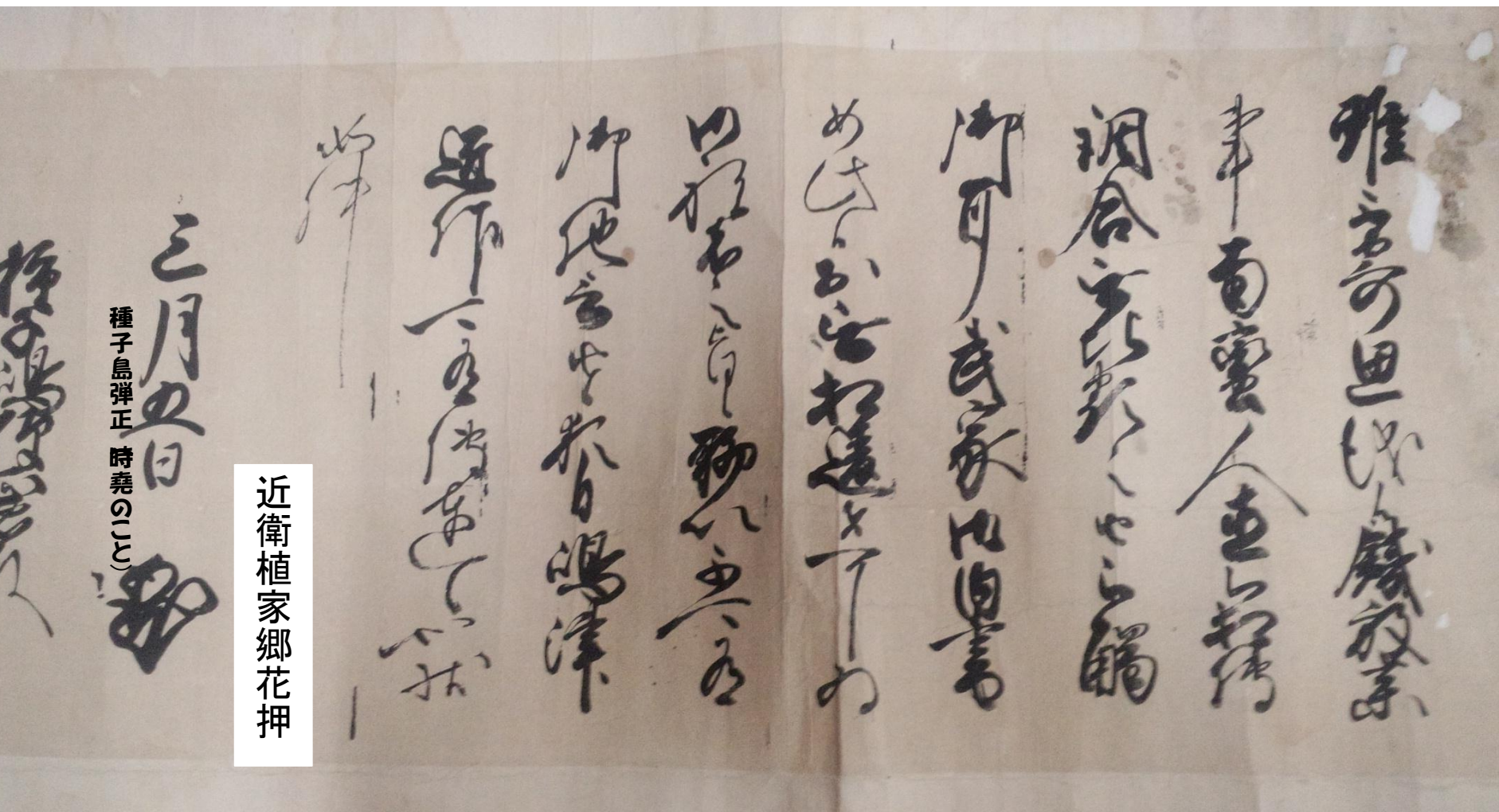
鐵砲記

鐵砲記

隅洲之南有一島去洲一十八里名種子

隅洲之南有一島去洲一十八里名曰種子我祖  
世々居焉古來相傳爲名種子者此島雖少其居  
民庶而且富譬如播種之下一種子而生々無窮  
是故名焉先是天文癸卯八月二十五丁酉我西  
村小浦有一大船不知自何國來上船客百餘人其  
形不類其語不通見者以爲奇怪矣其中有大明





近衛植家郷花押

種子島弾正時堯(1511)

三月廿日

南蛮人伝える所の鉄砲・妙薬の法天聴に達し、近衛植家郷、武家御内書を時堯に賜う(1549)





**鐵砲傳來紀功碑（門倉岬）**

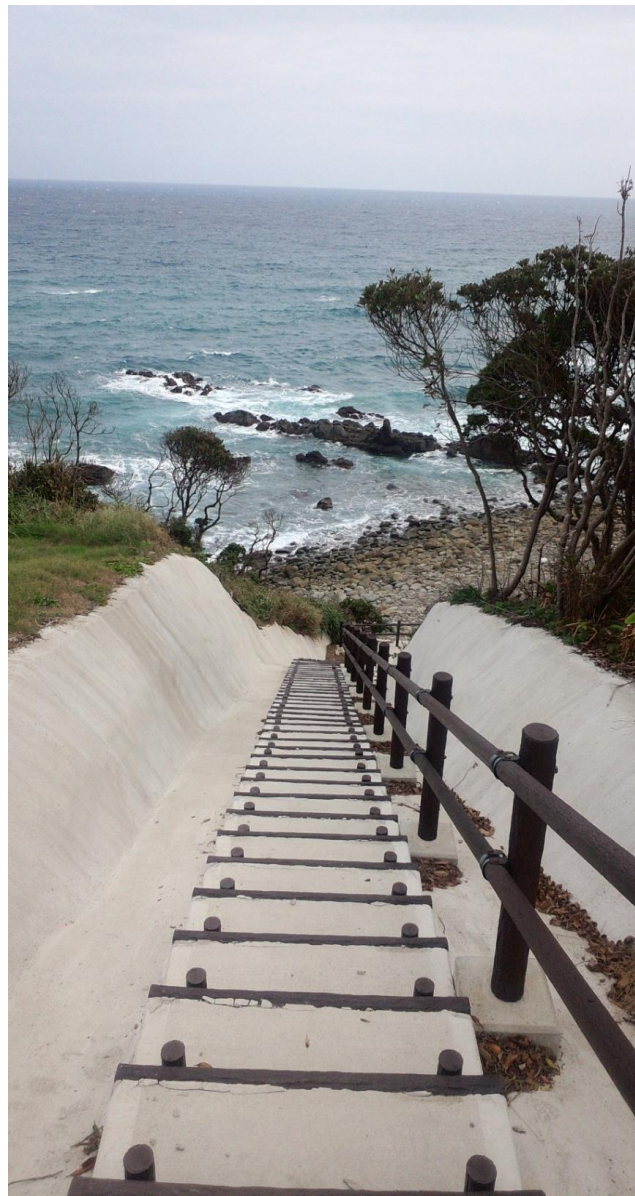


## ポルトガル人上陸地へ案内

---







**長い階段を降りると上陸地点**





# 葡國人上陸の地







**上陸地点の海は太平洋が広がる**

---







# 砲弾形の日葡親交記念碑 日葡協会建立







**日葡友好記念碑 (昭和15年)**  
**鷹司公爵来島**





# 種子島時堯公墓石 (中央)

第四代  
時堯  
鉄砲伝来の時の総柱

第六代  
幡時

第八代  
清時



南西諸島を見つめる  
時 堯 公







## 葡国伝来の火縄銃



**若狭伝説とは？**



八板氏清定一流系圖  
 清定 金兵衛尉

清定

金兵衛尉

源列閉之鍛冶吾刀銀為產業而未  
 天文十二年癸卯八月南蠻船漂來于西之村洋將獲  
 鐵炮而獻二枚古御於 攝主慈前 公公得於異杯之  
 甚愛焉故使於鍛冶清定約 勞字其製也清定以器  
 夷之賦能信教不容穿造心於船長年長 故舍以不  
 一朝之交而嫁之概得胡其型方千慮不通所以其  
 之術也隔數月蠻船開港携竊去臨別蠻人贈遺之  
 物許多也  
 同十三年甲辰南蠻船復漂到於坂井村熊野之洋推  
 廿若狹而得相見幸有船中一人鉄匠者誦之以得  
 底之術其時亦有泉列境之橋屋又三兩者奇之亦  
 定以得其術也 公此二鉄炮有日本之推與也  
 歷元年庚子 實普急灰爐  
 女子 若狹  
 元龜元年庚子 九月八日此法号宗密

女子

若狹

大永七年丁亥四月十五日生母賴原氏法若  
 天文十二年癸卯八月嫁年長叔舍列蠻國有感而  
 首  
 月七日本乃 方素奈津如志也我夔親乃有留  
 忠波

鉄砲鍛冶八板金兵衛・若狹の系図



# 孝女若狭の忠孝碑



き 月も日も日本の方ぞなつかし

わが両親のあると思

えば



**(伝) 八板金兵衛清定作火縄銃**







西 暦	年 号	お も な 出 来 事	時 堯	金兵衛・若狭
1436年	永享年間	① 慈遠寺の小僧義賛林応(のち日典)と四郎三郎(のち喜道・大会寺住寺)が南都興福寺に遊学(10年余り)、林応遊学の帰途、法華宗願本寺日浄上人と堺で宗論		
1455~1461	康正、長祿の間?	② 喜道を捨て林応は一人、 <b>尼崎本興寺の日隆上人</b> のもとへ走る。 ③ 林応は <b>法華宗へ転向、日典</b> と改名。喜道は種子島へ帰る ④ 20年後、日典は種子島へ帰る。種子島は <b>未だ律宗</b> であった ⑤ <b>日典、法華宗</b> を布教		
1463年	寛正4年	日典遷化。年63歳		
1465年	寛正6年	日典の弟子、 <b>淡路の日良上人</b> 来島		
1467年	応仁2年	12代忠時 生まれる		
1469年	文明元年	11代時氏は本源寺を創建する		
1487年	長享元年	時氏の請いにより、 <b>本興寺の日増上人</b> 来島		
1488年	長享二年	<b>慈遠寺の円林、法華</b> に転向 大会寺喜道改めず、河内に隠棲す		
1495年	明応4年	本源寺開山 <b>日良上人坂井村</b> に卒す。 <b>浄光寺</b> を創建		
1497年	明応6年	<b>忠時(のち12代)</b> 、飛鳥井中納言雅康より、弓馬、歌、鞠の修学のため、 <b>上洛</b>		
	明応8年	忠時、飛鳥井中納言雅康より、弓馬、歌、鞠の免状を受ける		
1499年	文亀元年	<b>美濃国に刀鍛冶 金兵衛清定、生まれる</b>		
<b>1502年</b>	<b>文亀2年</b>	13代恵時 生まれる		
1503年	文亀3年	11代時氏死去 58歳		
1504年	永正元年	<b>連歌師宗碩</b> 来島		
1508年	永正5年	<b>吉川出雲守、將軍家の命を奉じて、渡明船の建造のため来島</b>		
1520年	永正17年	將軍義晴公の管領細川右京大夫高國、恵時に囁して渡明船を造る		
1521年	大永元年	① 池田の黒山尻の忠時の居館、焼失。伝来の文書・什器焼失		
1525年	大永5年	② 2代忠時死去 69歳		忠時69歳死

種子島の宗教改革

後期徳寇時代  
上方文化の摂取



1525～ 1526年		<b>この頃、金兵衛来島？ 横原氏の女と結婚？</b>			23～24歳？
1527年	<b>大永7年</b>	<b>若狭 生まれる</b>			
1528年	<b>享禄元年</b>	<b>時堯生まれる</b>			
1537年	天文6年	本能寺日承上人 <b>法華の乱</b> にて、京都～堺頭本寺経由、種子島へ。			<b>時堯 9歳</b>
1543年	天文12年	明国船漂着。鉄砲の伝来			<b>時堯15歳</b>
1544年	天文13年	明国船再び熊野浦に漂着。国産化に成功 津田監物鉄砲を紀州へ伝える <b>渡明船出港(4/14)</b>	<b>法華の乱</b>		
1545年	天文14年	細川晴元より <b>本能寺</b> を介して、時堯へ謝状届く(本能寺文書) 橘屋又三郎堺にて鉄砲製作、砲術を広める 根来へ鉄砲贈呈。将軍へ献上、大友氏、時堯へ南蛮人を招請 <b>渡明船帰朝(6/14)</b>	<b>鉄砲の伝来 本能寺との結びつき</b>		
1547年	天文16年	① <b>本能寺 日承上人帰洛、本能寺8世となる</b> ② 日承上人の時代に法華宗は畿内、北陸、瀬戸内、種子島まで布教 ③ 南蛮交易を通して、 <b>鉄砲・火薬</b> を手し、戦国大名と親交が深かった ④ <b>織田信長は日承上人に帰依、本能寺が上洛中の宿所となった</b>			
1549年	天文18年	<b>ザビエル鹿児島へ上陸</b> 南蛮人伝える鉄砲・妙薬の法天聴に達し、 <b>近衛植家卿より御内書を賜る</b>	<b>種子島滞在</b>		<b>時堯 21歳</b>
1551年	天文20年	① 時堯、武芸を好み、京都にて源信貞に、剣術・槍・突棒の蘊奥を究める ② <b>ザビエルが豊後を経ち、インドへの帰路、種子島へ滞在、(8日間)</b>			<b>金兵衛52歳</b> <b>若狭 22歳</b>
1555年	弘治元年	時堯上洛			<b>時堯32歳</b>
1558年	弘治4年	① 木下藤吉郎、織田信長に仕える ② 時堯、信長に鉄砲玉5000個を調達する。	<b>信長と時堯の結びつき</b>		<b>金兵衛59歳</b> <b>若狭 33歳</b>
1560年	永禄3年	① 時堯 思う所あって、家を時次(5歳)に譲り、 <b>上洛</b> ② 織田信長、尾張桶狭間に今川義元を襲撃し、義元敗死			
1561年	永禄4年	① 太守、肝付氏と戦う ② 時堯の女、太守義久の夫人となる ③ 杉謙信と武田信玄が川中島で戦う			

1562年	永禄5年	時堯、本能寺日与上人の守一幅を益田村清浄寺(11代時氏創建)へ納める	時堯の上洛とは？	時堯33歳	
1563年	永禄6年	15代時次死去(7歳)。母は禰寝大和守尊重の女。再び政を聴く 本源寺を坂の上に改め造る		時堯34歳	
1570年	元龜元年	金兵衛死去(69歳)		時堯42歳	
1573年		室町幕府滅ぶ 織田信長の台頭		若狭43歳	

## 資料2

種子島鉄砲鍛冶 八板氏清定一流系図

○清定 金兵衛

濃洲関之鍛冶善刀劍為産業而來

天文十二年癸卯八月南蛮船漂来于西之村洋時携来鉄砲而二挺

故郷脇差於島主恵時時堯公公得於異邦之珍甚愛○故使於鍛冶清

定約師弟学其製也清定以謂外夷之賊雖告信敢不容寧遣嫡女於船

長牟良淑舎以不如結一朝之交而嫁之概得聞其製方千慮不通所以塞

其底之術也隔数月蛮船開港嫡女去臨別蛮人贈遺之品物許多也

同十三年甲辰南蛮船復漂到於坂井村熊野之洋携嫡 而得相見

幸有船中一人鉄匠者師之以得塞其底之術○時亦有泉州境之橘屋

又三郎者一奇之亦師清定以得其術也公此二鉄砲者日本之権與也

歷数年家傳之寶器悉灰燼

元龜元年庚午九月八日死法号宗宥

女子 若狭

大永七年丁亥四月十五日生 母檜原氏法名妙宥

天文十二年癸卯八月嫁牟良淑舎到蛮国有感而詠一首

月毛日毛日本之方素奈津加志也我双親乃有留都思恵波

天文十三年駕蛮船来而父子相見数日而若狭詐大病為死

菅棺槨而殯葬蛮人見之不流涕

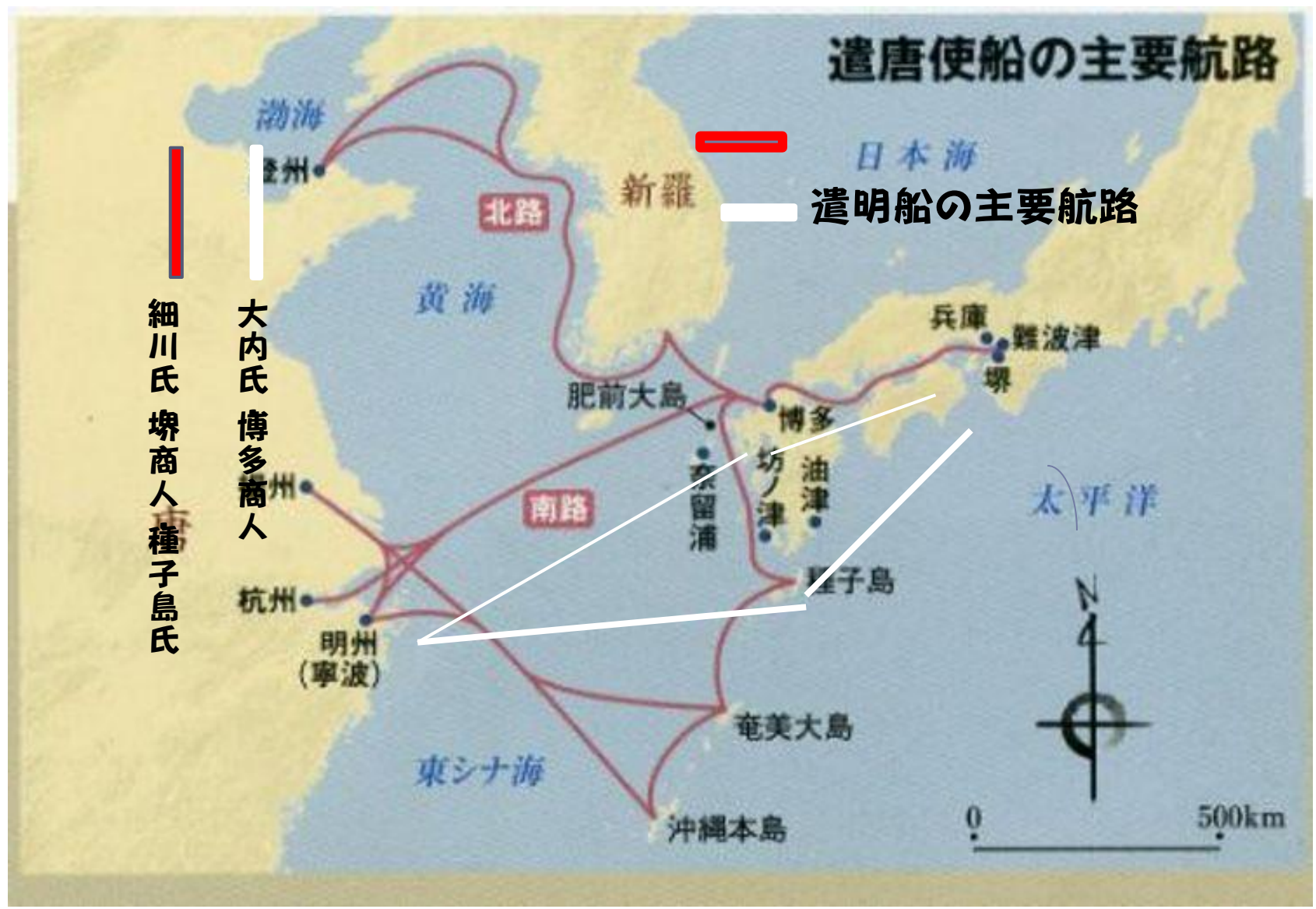
省略 つづき



# 遣唐使船の主要航路

遣明船の主要航路

細川氏 堺商人 種子島氏  
大内氏 博多商人





# 遣明船の図






---

参 考

**鉄砲伝来450周年  
記念事業関係**

---





**サグレス号入港リアレス大統領が長崎から  
乗船(1988)**

---







**ソアレス大統領鉄砲館視察  
1988・7・22**





**葡国製複製火縄銃をもつ  
ソアレス大統領 (1988)**





**マカオの高校生らが民族衣装で舞踊を披露 (1988・7)**



**マカオ政府関係者も南蛮仮装行列に参加(1988・7)**







**パチェゴ・デイエゴ神父  
(26聖人記念館長) 1988・7・22**





**鉄砲伝来450周年で来島のポ国  
要人(1988・7)**



**コーテイニヨ駐日大使と井元西之表市長  
1988・7**



日。ホ親交記念碑を見学する井元  
市長・コーテニヨ駐日大使、手前は  
緑川通訳官（一九七三）





## 駐日大使ご家族が西之表市長を 表敬訪問







**駐日コーテイニヨ大使閣下歓迎会  
(1974)**

---





## 島の南端に建つサグレス号 記念碑 (1988年)



**お　わ　り**

**ご清聴ありがとうございました**

